

## 日韓シンポジウム 2015—開催にあたって

桜美林大学 日韓シンポジウム 2015 運営委員会

桜美林大学と明知大学校は、日本と韓国の文化交流を促進すべく 2000 年以降二年おきに学術シンポジウムを開催してまいりました。今回は「日・韓の未来—あたらしい視座を求めて」というテーマを設定し、両校から六人の発表者と三人の討論者の方々に登壇していただきます。

近年の日韓両国の関係は決して望ましい状態にあるとは言えません。相互理解は深まるどころか、両国の文化のもつ多様性や豊穡さは無視されて、安易なステレオタイプが作られては差異や対立のみが強調され、自己中心的なイデオロギーが蔓延しています。植民地支配・被支配の「不幸な関係」は 70 年を経過した今もなお、現実政治の世界のみならず、歴史学を含む学問の世界にも少なからず影響を与え続けています。グローバリズムが喧伝され、実際、両国間の相互依存はあらゆる分野で緊密化する一方で、「反日」「嫌韓」に象徴される大衆ナショナリズムが台頭している状況をまえにして、私たちに何ができるのでしょうか。

こうしたイデオロギーに抗し、さらにそれを乗り越えていくには、私たちが「当然」と思い込んでいる、あるいは信じている価値観や視座を可能な限り相対化していく必要があることは言うまでもありません。そのためには、近・現代につくられた歴史像からいったん離れて古代・中世の多様な世界から学ぶことも必要でしょうし、両国の文化や社会そのものをより深く洞察することも必要になるでしょう。今回のシンポジウムはこうした点を踏まえて構成を試みました。両国の専門家の方々に日韓関係の未来にとって必要とされる視座やアプローチをそれぞれの研究を通して発表していただきます。

第 1 セッションでは、歴史学・経済学の研究を通して、よりの確に「現実」を認識する方途を探ります。

第 2 セッションでは、両国文化における同一性と差異性を、日常レベルの分析を通して考察します。

最後の第 3 セッションでは、近代以降の日韓のナショナリズムが生み出してきた相互排他的な二項対立を根本から批判する新たな視座を模索します。

明知大学校と桜美林大学による「日韓シンポジウム」は過去十五年にわたり、目まぐるしく変化する政治情勢に動じることなく、共に容認し、共に支え合う交流を、それぞれの大学の研究を介しつつ、真摯に続けてまいりました。今回のシンポジウムによってこれまで両校が築いてきた絆がさらに強固となり、未来に開かれた文化交流の布石にならんことを願ってやみません。